

(仮称)

宮前区の「希望のシナリオ」実現プロジェクト



みやまえ
取り組み隊
再始動!

宮前区らしいしくみ

「ラウンドテーブル」を お試し実施しよう!

ミーティング3

宮前区らしい

ソーシャルデザインセンター考えよう

令和4 (2022) 年 3月 13日 (日) 13:30~16:30

参考資料

CONTENTS

<テーブル1>

1-1	テーブル1_MTG1_まとめ	2
1-2	ミーティング2まとめ	4
1-3	町内会作成のまとめ(12月22日資料)	16
1-4	町内会作成当日アンケート	18
1-5	公園の活用について	23
1-6	宮前公園活用ガイドライン_チラシ	24
1-7	宮前公園活用ガイドライン	25

<テーブル2>

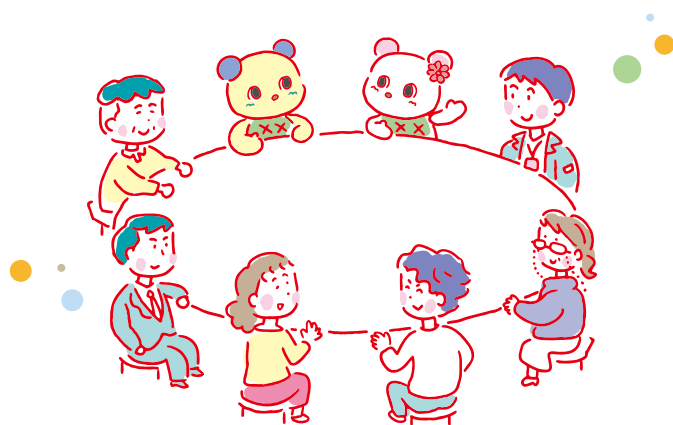
2-1	テーブル2_MTG1_まとめ	26
2-2	ミーティング2まとめ	29
2-3	自動車文庫紹介資料	36

<テーブル3>

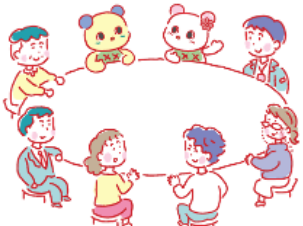
3-1	テーブル3_MTG1_まとめ	39
3-2	ミーティング2まとめ	41
3-3	第2回コジマルシェチラシ	46

<共通>

4	ラウンドテーブル効果検証アンケート結果	47
5	公共施設の地域化アンケートの結果	77



宮前区の「希望のシナリオ」実現プロジェクト



宮前区ソーシャルデザインセンターの創出に向けた
「ラウンドテーブルお試し実施」
検証アンケート

アンケート結果

実施概要

目的	・ 宮前区 SDC の創出に向けた検討のために、ラウンドテーブルを検証すること ・ 宮前区 SDC のあり方について皆様のご意見をお伺いし、課題を整理すること
活用方法	・ 宮前区 SDC のあり方の案を作成するための基礎資料として活用します ・ ミーティング3での宮前区 SDC のあり方に関する議論の組み立てに活用します
内容・構成	① ご自身について ② お試しラウンドテーブルについて ③ 宮前区 SDC のあり方について (全 11 問)
実施期間	2022 年 2 月 1 日～24 日
回答数 回答者数	32 回答 29 名 * 複数のラウンドテーブルに参加された方は複数ご提出いただいたため、 人数に対して回答数が多い

宮前区の「希望のシナリオ」実現プロジェクト

宮前区ソーシャルデザインセンターの創出に向けた
「ラウンドテーブルお試し実施」
検証アンケートへのご協力をお願い

2022 年 2 月

ラウンドテーブルのお試し実施にご参加・ご協力いただいたみなさま

宮前区のソーシャルデザインセンター(SDC)の創出に向けた「ラウンドテーブルお試し実施」にご参加いただき、誠にありがとうございます。宮前区 SDC の創出に向けたラウンドテーブルの検証のためのアンケート調査を実施します。ご多忙のところ大変恐縮ですが、アンケートにご協力いただきますよう、お願いいたします。

【補足説明】 今回の取組の趣旨やアンケートの目的について

●これまでの経緯

宮前区の「希望のシナリオ実現プロジェクト」では、2018 年から区民の皆さまと共に、「ソーシャルデザインセンター (SDC)」の創出に向けた取組として、ワークショップや現地ツアーを実施してきました。それらを通して、宮前区内での豊かな活動の広がりを再確認するとともに、活動を体験し、資源（それぞれの活動がもつ人、ノウハウ、モノ、場所等）の再発掘を行い、それぞれの活動から見入った資源を整理し、活動の支援につながるアイデアについて6つの柱で整理しました。そして、現地ツアーで見つけた資源を使って実現したい「アクション」を考えていただき、地域にある資源の掛け合わせでたくさんのアクション案が生まれました。

今年度は、これまでの取組をもとに、宮前区内の豊かな活動を最大限に活かしていくことが重要であり、そのためには、お互いを知り、つながり、信頼できる関係を築くことが必要と考え、そのための「しくみ」や「しかけ」が宮前区らしいしくみではないかという仮説を立てました。その「しくみ」や「しかけ」の一つの形式が「ラウンドテーブル」であり、皆さまと共にお試し実施をさせていただいたところで、

「あやまき取り組み」の活動の手助けになるかも？

6つのアイデアの柱

人やノウハウをつなぐ

場所のシェアや活用工夫

情報発信を支援する

活動の運営を支える

次世代の担い手を育てる

宮前区らしさを広げる

▲アンケートのご案内（表紙）

宮前区の「希望のシナリオ」実現プロジェクト

宮前区ソーシャルデザインセンターの創出に向けた
「ラウンドテーブルお試し実施」
検証アンケート

「ラウンドテーブルお試し実施」検証アンケート

ラウンドテーブルのお試し実施にご参加・ご協力いただいたみなさま

宮前区のソーシャルデザインセンター (SDC) の創出に向けた「ラウンドテーブルのお試し実施」にご参加いただき、誠にありがとうございます。

宮前区SDCの創出に向けたラウンドテーブルの検証のためのアンケート調査を実施します。ご多忙のところ大変恐縮ですが、アンケートにご協力いただきますよう、お願いいたします。

【アンケートの構成】 (全11問)

- ご自身について*
- お試しラウンドテーブルについて*
- 宮前区SDCのあり方について

回答期間：2022年2月11日（金）

Google にログインすると作業内容を保存できます。 [詳細](#)

*必須

●あなたご自身について、お聞きします

【問1】お名前*

回答を入力

【問2】参加したラウンドテーブルを教えてください。*

（※ではあるが1つを撮影）※複数のラウンドテーブルにご参加いただいた方は、大変お手数ですが、タブレットに写真をお撮りください。

☐ 1. 公園/マルシェで「拡大まちかどシェア」（佐々木・滝野さん）

☐ 2. シニアが気軽に立ち寄れる場（宮前区産業の駅）をつくってみよう！（西村さん）

☐ 3. 民間が保有する地域の場と地域活動をマッチングしよう！（森山さん）

[次へ](#) [フォームをクリア](#)

Google フォームでパスワードを設定しないください。

このフォームは community-design.jp 内で作成されました。不正改ざんの検出

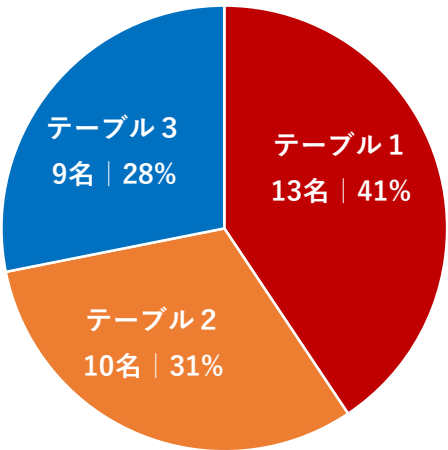
Google フォーム

▲回答フォーム（オンライン版）

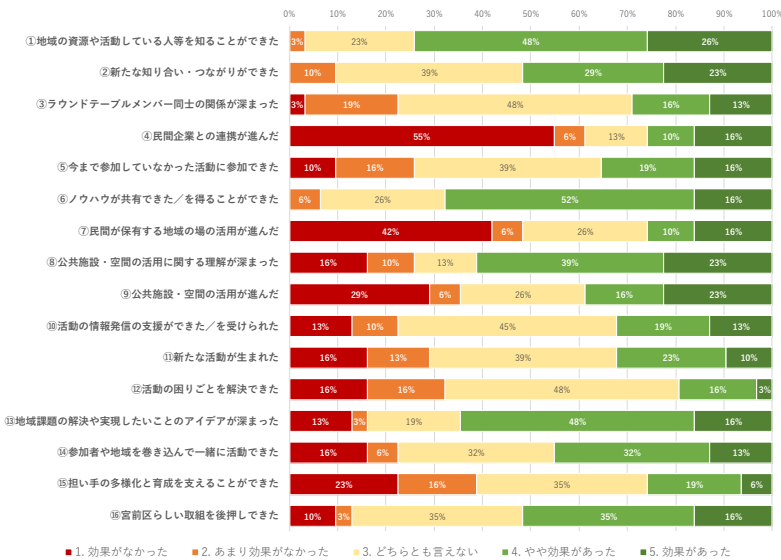
アンケート結果 | 概要

ラウンドテーブルについて

2 | 参加したテーブル



3 | ラウンドテーブルの効果



4 | 参加した「お試しラウンドテーブル」の効果に関するご意見

凡例 | 良かったこと | どちらでもない・改善できること | 気になったこと

テーブル1：公園×マルシェで「拡大まちかどシェア」

- 活動の運営の手助けになった
- 場の活用を通じて地域の人と知り合える活動にやりがいを感じた
- 活動について、取組の運営方法や、人や場などの資源の活用について理解が深まった
- 行政や町内会の参加による活動の広がりや安心感を感じた
- 開催等の大事な部分はすべて決まっていたので、ラウンドテーブル単体での効果は答えづらい
- メンバーの関係を深める、新たな活動を生むためには積み重ねが必要

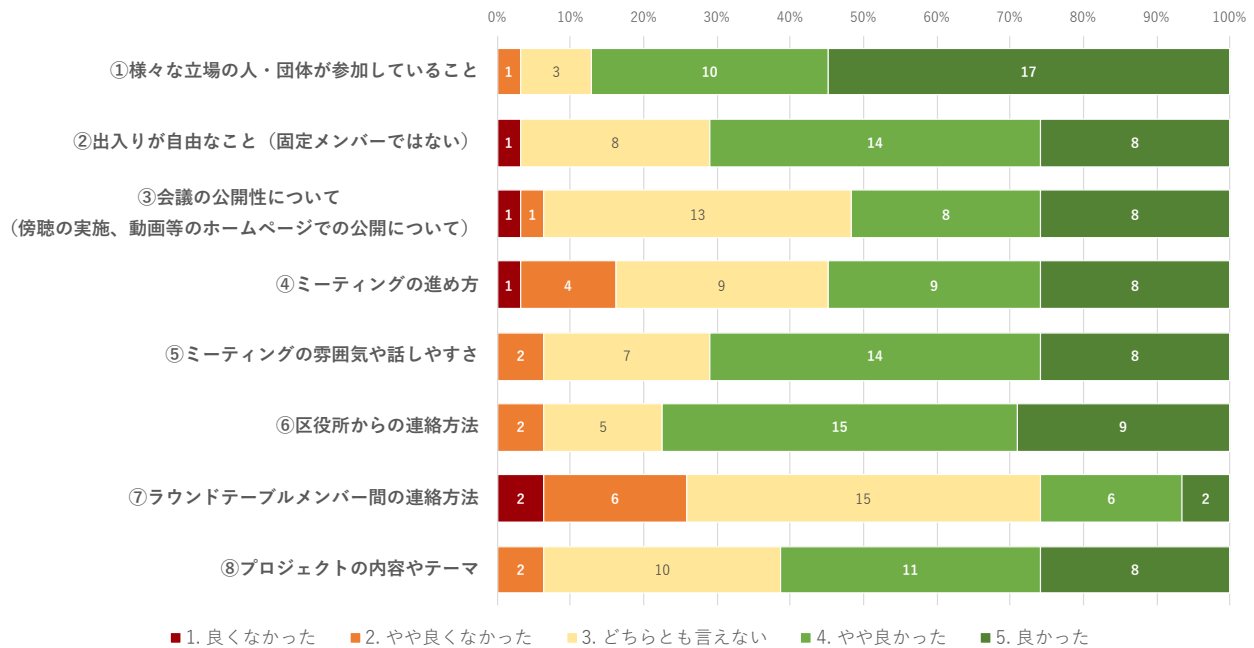
テーブル2：シニアが気軽に立ち寄れる場（宮前区版道の駅）をつくってみよう！

- 一から課題を検討するテーマはラウンドテーブルのお試しとして良かった
- 課題の検討、課題に気づくことができた
- 様々な資源があることがわかった
- 対象をシニアに限定する必要はないのでは
- テーブル2の効果測定はまだ早い

テーブル3：民間が保有する地域の場と地域活動をマッチングしよう！

- 参加者の活動力や熱意に感心した
- 効果を実感できるのはイベント実施後なので、まだわからない

5 | お試しラウンドテーブルの進め方

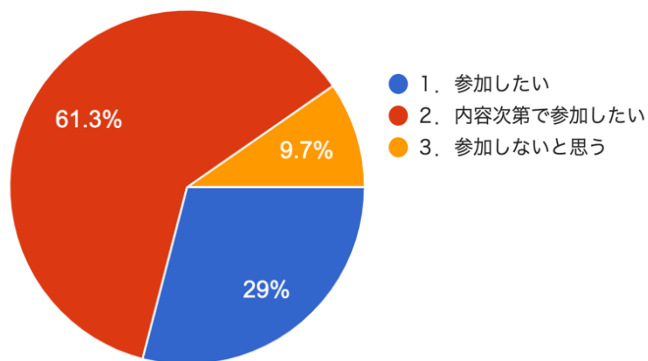


6 | お試しラウンドテーブルの進め方に関するご意見

凡例 | 良かったこと | どちらでもない・改善できること | 気になったこと

- さまざまな立場の人の意見を聞くことができた
- 若い世代の参加できるとより良かった
- メンバー間で連絡ができるツールは用意されていたのか？（なければ評価できない）
- 継続的なつながりを促す仕掛けが必要
- 他自治体の事例を知りたい
- とくになし、まだなんとも言えない
- イベントを実施するための仕組みと勘違いしそう。SDC のあり方の議論が必要
- 進め方が場当たりの、慌ただしかった
- ミーティングのゴールが不明瞭だった
- 自己紹介だけではノウハウの継承、場所のシェアや活用にはつながらない。働きかけが必要
- ミーティングの進行とは関係ないやりとりが多かった
- テーマとイベントがあらかじめ決まっていたと感じた
- SDC がわかりにくい
- 今年度（お試し実施）の目的とゴールが見えにくかった
- 参加するラウンドテーブルは自由に選択できたら良かった

7-1 | ラウンドテーブルへの今後の参加について



7-2 | 希望する関わり方

- ・ラウンドテーブルメンバーとして：
19 回答 (79.2%)
- ・傍聴として：
5 回答 (20.8%)
- ・プロジェクトオーナーとして：
4 回答 (16.7%)

7-3 | 参加してみたいと思うラウンドテーブルのテーマ

関心があるテーマなど

- 人材や活動をつなげるなどのしくみづくりや運営方法
- 公共施設・民間施設の利活用
- 交流できる場づくり・たまり場づくり
- 市民の交流、多世代交流
- 防災をテーマにした取組
- 高齢者の課題を解決し、サポートするような取組
- イベントや講座
- 宮前のより良いコミュニティづくり・まちづくりにつながる内容であればこだわらない
- とくにない／お試し実施後に考えたい

連携したい人

- 若い人・町内会・商店会など、お試し実施に参加していなかったような人との連携
- 民間企業と地域との連携

どんな場であって欲しいか

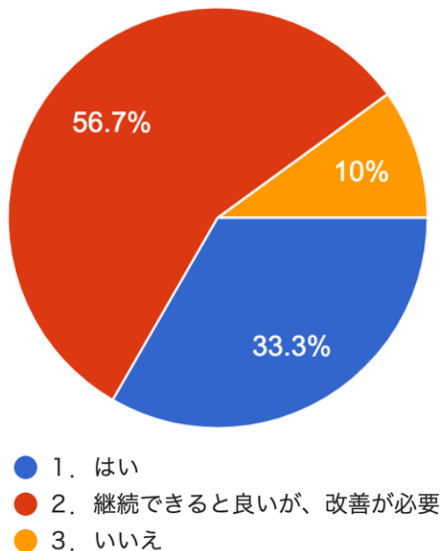
- 住民参加や対話のオープンな場で、宮前の魅力を創出し発信する企画
- 参加者への配慮として目的を明確にすることが必要

8 | その他「お試し実施」についてご意見

- 様々な立場の意見が聞けた
- SDC のイメージや希望のシナリオの進め方について議論する場があると良い
- テーブルが果たした役割がまだ理解できていない／課題を理解しきれなかった
- 実施はしなかったが素敵なアイデアが出たので、実現できると良い
- コロナでリアルイベントを実施できるか心配。オンライン活用の検討も必要
- 違う時間帯のコジマ施設の地域 PR のための活用を試せると良い
- 特技を持つ人の発掘とお披露目ができると良い
- ラウンドテーブルのテーマや方向性がすでに決まっていた
- 特にない

SDC のあり方について

9-1・2 | ラウンドテーブル形式の継続に関するご意見



はい（継続できると良い）

- 活発な意見交換ができて、発見や気づきにつながるため
- 期間を設けて、まちづくりの実情に合った討議が必要

継続できると良いが、改善が必要

- ラウンドテーブルには多様な人を巻き込み、人が偏らない工夫が必要
- 実際のラウンドテーブルでは、参加するテーブルを自由に選択できると良い
- 場所とメンバーは固定したほうが良い（メンバーは期間限定でよい）
- 場所はいらないが、ラウンドテーブルを回すための事務局のような機能が必要
- 区役所の主導がある程度必要
- 同じ話が繰り返され、効果がないことが心配
- 対面で集まってラウンドテーブルを実施するということを前提にして良いかが心配
- 現段階では判断できない、実践と考察を繰り返すことが大事

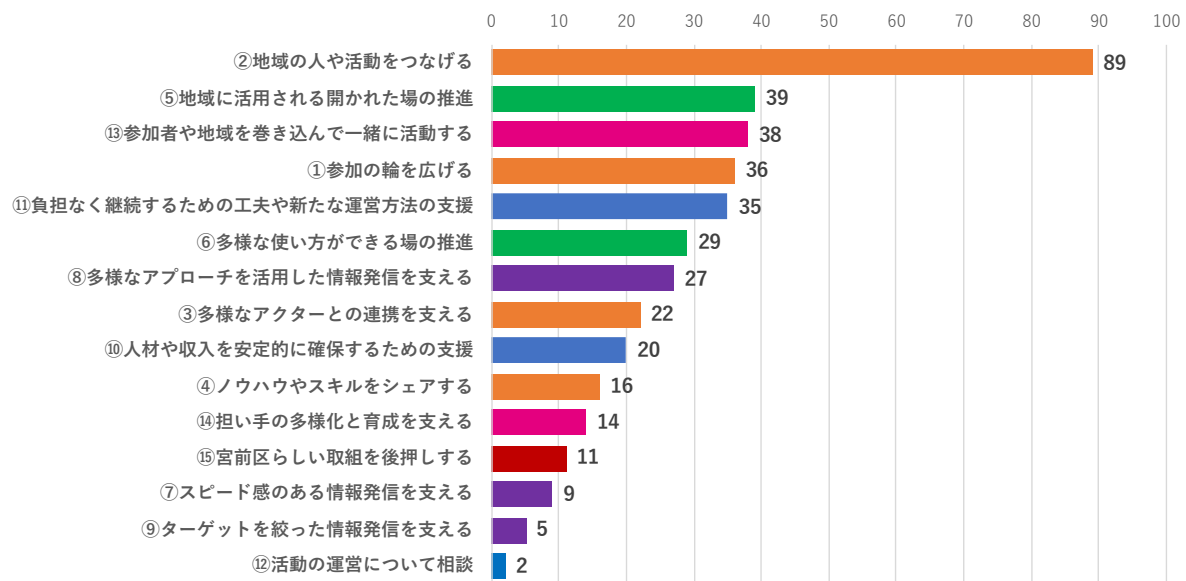
いいえ

- 具体的な企画がなくてもふらっと悩みを相談できる、日常の区民を受け入れる場所になるとよい

9-3 | ラウンドテーブル形式以外のアイデア

- 活動する人や団体が活動を共有し、交流を通じて繋がり、新たな活動を生み出す
- 資源と人を結んで、課題解決に導くようなしくみ
- 市民の活動を支援するしくみ
- 市民の声を広く集める、悩みの相談に乗る
- 市民がふらっと立ち寄って創発が生まれる環境をつくるために、固定した場所とスタッフ機能が必要
- 実施する取組（拠点やラウンドテーブルなど）は、その時のニーズに合わせて変化しても良い
- まちづくり協議会と一緒に活動できると良い
- その他

10 | 宮前区 SDC が担うべき役割・果たすべき機能



11 | 宮前らしい仕組みでさらに検討が必要なこと

人の巻き込み方

- 若い／多様な世代、新住民を巻き込む方法や取組が必要
- 企業の巻き込んだ取組の実施

運営主体について

- 誰が団体同士をつなげ、大きな動きにしていくのかを考える必要がある
- ラウンドテーブルのノウハウをどのように蓄積するか

場について

- 参加者のつながりを自然に生む環境をつくるため、同じ時間に同じ場所で集まれることが大事
- 出張所などの場の資源を活用できると良い

情報発信

- 地域の活動の情報発信方法の検討が必要
- SDC の取組自体を住民に知ってもらうための工夫が必要

「宮前区らしさ」とは

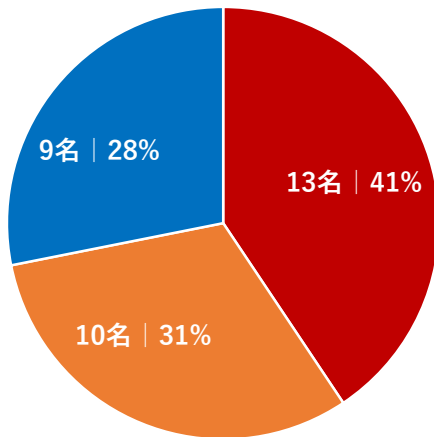
- 「宮前区らしさ」の検討が必要
- 他区の取組を知ること、宮前らしさを生み出す
- 宮前区らしい資源の発掘と確認と、点から面への展開が必要（主にテーブル1について）

その他：実施方法やテーマ等について

ラウンドテーブルについて（詳細）

【問2】 ご参加いただいたラウンドテーブル

32 件の回答

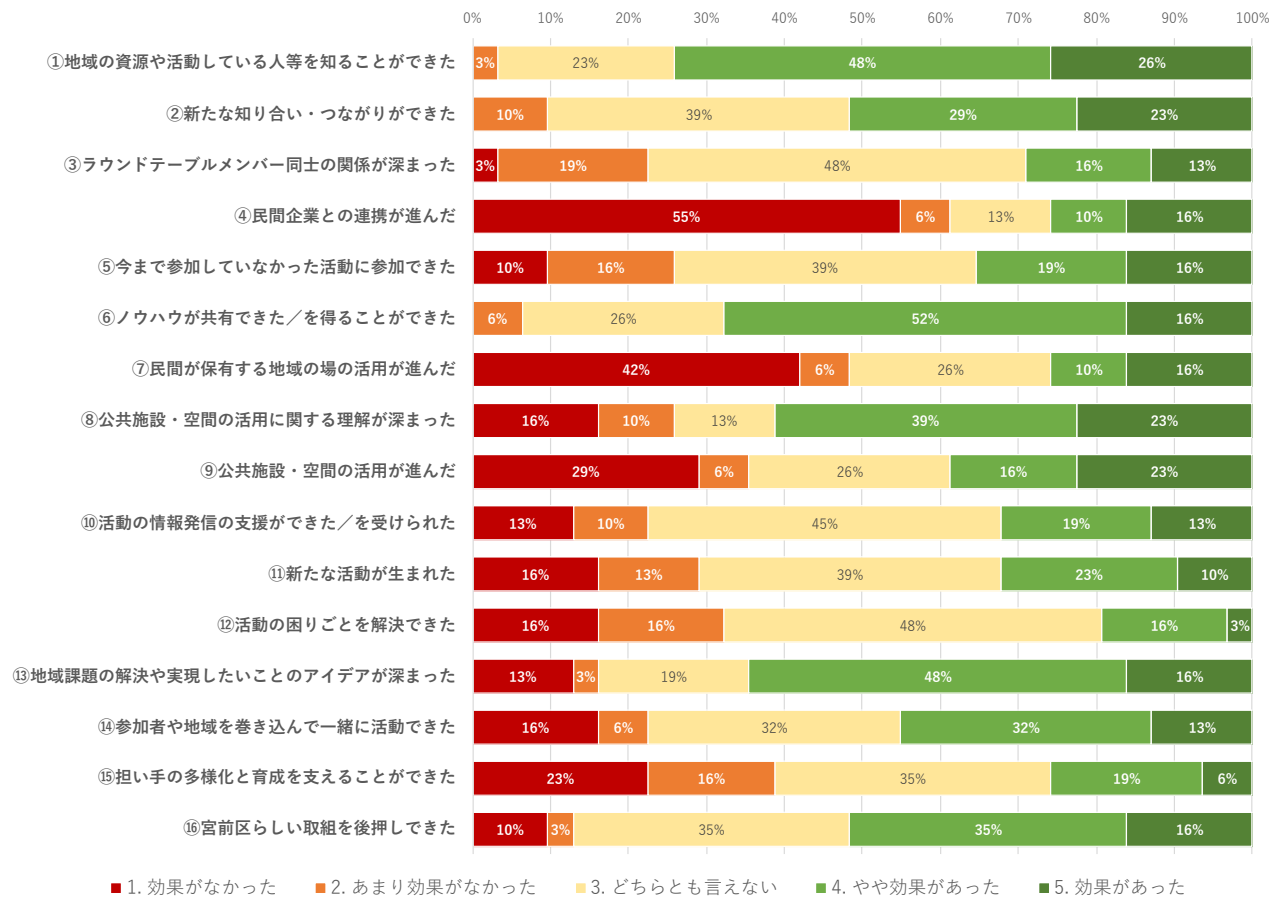


- 1. 公園×マルシェで「拡大まちかどシェア」（辻さん・浅野さん）
- 2. シニアが気軽に立ち寄れる場（宮前区版道の駅）をつくってみよう！（西村さん）
- 3. 民間が保有する地域の場と地域活動をマッチングしよう！（森山さん）

【問3】 参加された「お試しラウンドテーブル」の効果について、評価してください。

問3 | 全体

【問3】 参加された「お試しラウンドテーブル」の効果について、評価してください。



評価が高かった効果（効果があった＋やや効果があった）

- 1. ① 地域の資源や活動している人等を知ることができた (74%)
- 2. ⑥ ノウハウが共有できた／を得ることができた (68%)
- 3. ⑬ 地域課題の解決や実現したいことのアプローチが深まった (65%)
- 4. ⑧ 公共施設・空間の活用に関する理解が深まった (61%)
- 5. ② 新たな知り合い・つながりができた (52%)

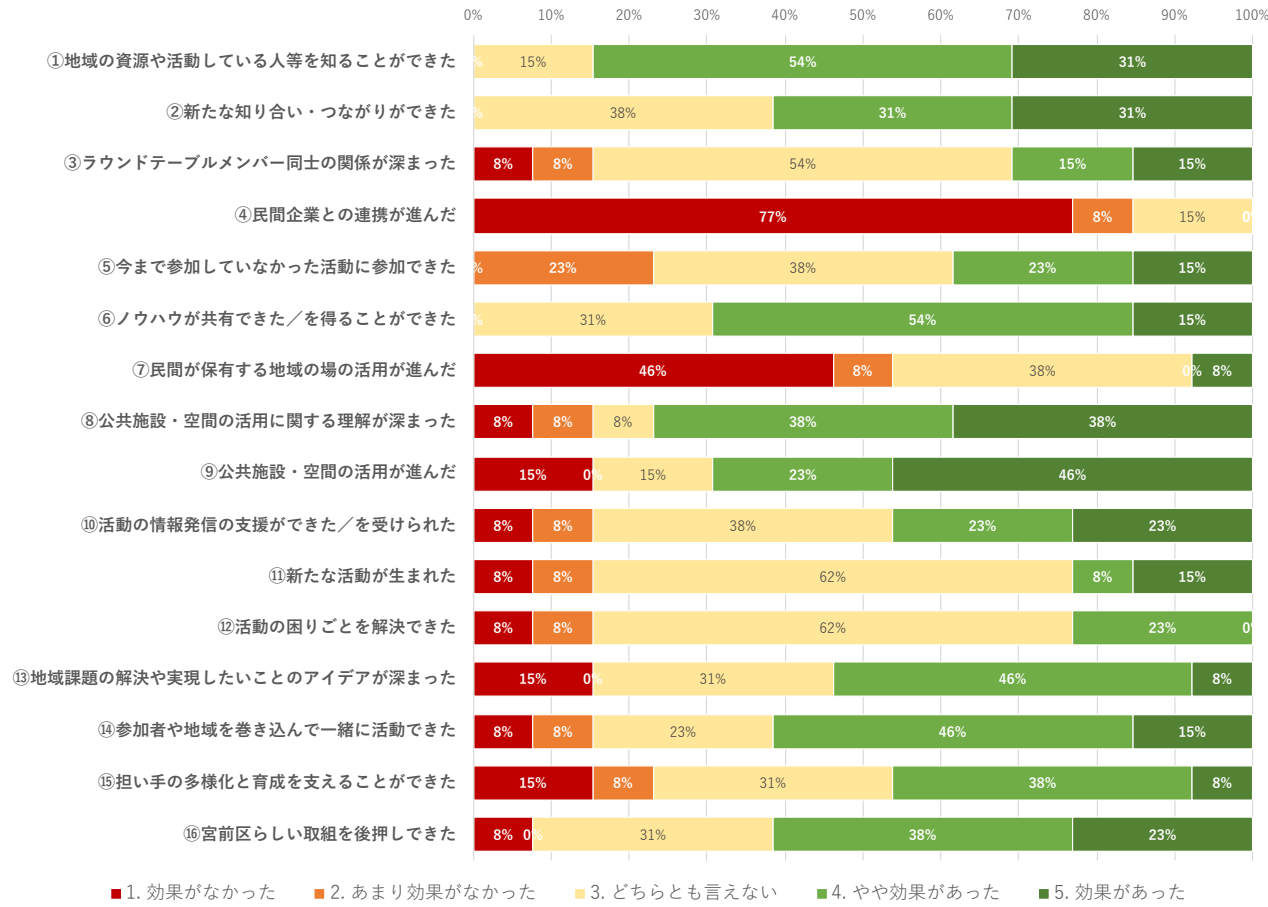
全テーブルで
トップ3入り

評価が低かった効果（効果がなかった＋あまり効果がなかった）

- 1. ④ 民間企業との連携が進んだ (61%)
- 2. ⑦ 民間が保有する地域の場の活用が進んだ (48%)
- 3. ⑮ 担い手の多様化と育成を支えることができた (39%)

問3 | テーブル1

テーブル1 【問3】 参加された「お試しラウンドテーブル」の効果について、評価してください。



評価が高かった効果（効果があった＋やや効果があった）

- 1. ① 地域の資源や活動している人等を知ることができた (85%)
- 2. ⑧ 公共施設・空間の活用に関する理解が深まった (77%)
- 3. ⑨ 公共施設・空間の活用が進んだ (69%)
- ⑥ ノウハウが共有できた／を得ることができた (69%)

アンケート結果のポイント

- ・ 公共施設（公園）の活用に関する評価が高かった
- ・ 自由記述では、既に開催が決まっていたイベントに1回参加しただけでは、開催に至るまでのプロセスの全容を深く理解することはできないが、活動について、運営の裏側について、地域資源（人や場）の活用について理解が深まったというご意見があった

問4 | テーブル1 [問3のご回答の補足や、その他の効果などに関するご意見]

●活動の運営の手助けになった

- ・もともと開催も協力団体（町会や地域振興課など）も大事な部分はすべて決まっていたおちばマルシェだったので、ラウンドテーブル単体での効果と言われると答えづらい項目がありました。ですが細かい準備や人手と言う点では確実に助けになりました。

●場の活用を通じて地域の人と知り合える活動にやりがいを感じた

- ・1回の体験だし、既に企画されているものへの参加だったので、経験してみたという程度だったが、今後も場を活用して地域の人が知り合えたり町を楽しめる活動はやりがいがあると感じました。

●活動について、取組の運営方法や、人や場などの資源の活用について理解が深まった

- ・花の台地区とは居住区域が違うが、取組み方や人材や場所の資源活用法の一端を知ることができました。
- ・たまたま会議に一度参加することになり、その流れでマルシェ当日も楽しませていただきましたが、非常に多くの方が関わっておられ、その全体の役割等把握するのに運営側の方はどんなにご苦労だったかと思いました。
- ・ラウンドテーブルに参加することで、活動に対する理解が深まった。

●行政や町内会の参加による活動の広がりや安心感を感じた

- ・行政との協働によって、安心感が確保できた。
- ・これまでもマルシェに参加したことはあったが、今回、区役所や町内会が活動に参加することで、活動の広がりを感じた。

●開催等の大事な部分はすべて決まっていたので、ラウンドテーブル単体での効果は答えづらい

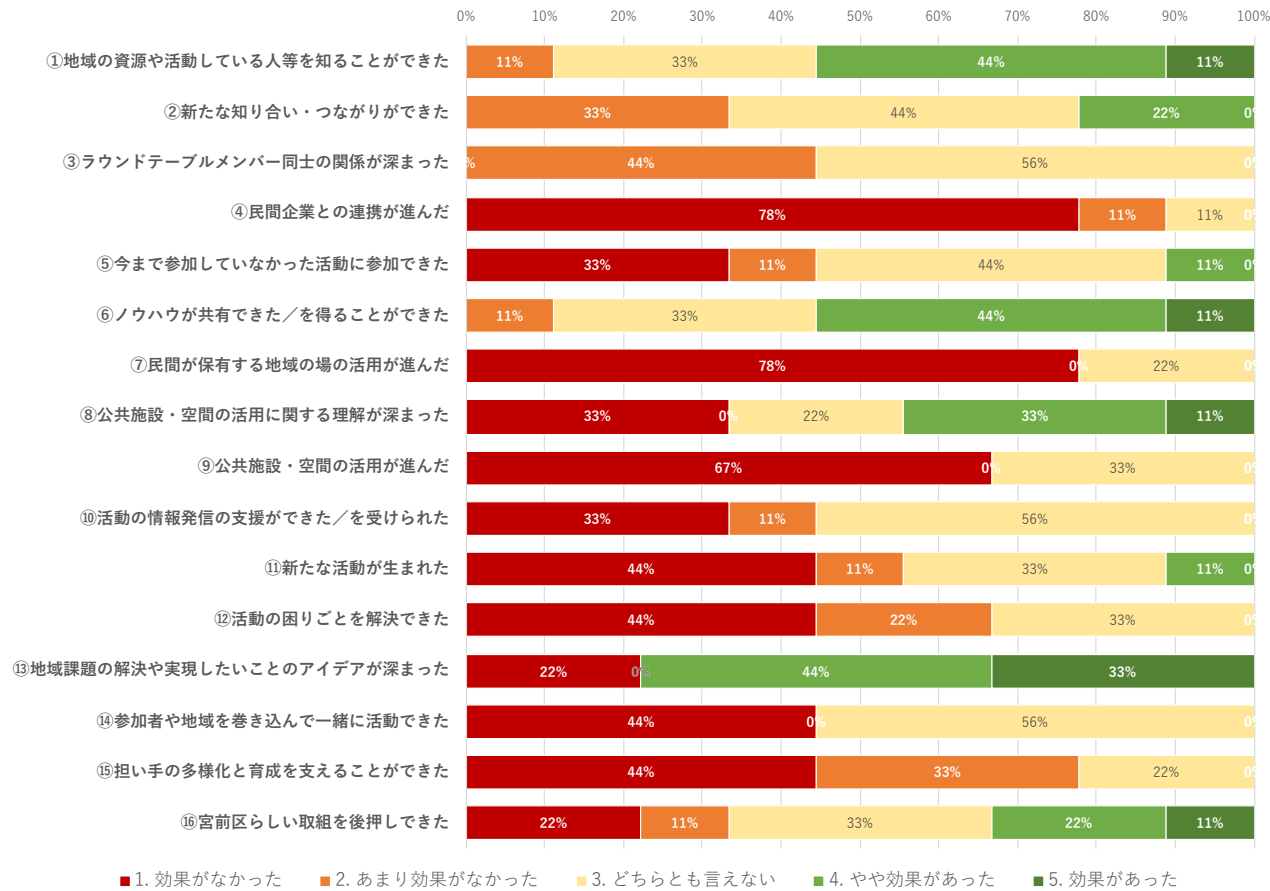
- ・もともと開催も協力団体（町会や地域振興課など）も大事な部分はすべて決まっていたおちばマルシェだったので、ラウンドテーブル単体での効果と言われると答えづらい項目がありました。

●メンバーの関係を深める、新たな活動を生むためには積み重ねが必要

- ・「③ラウンドテーブルメンバー同士の関係が深まった」や「⑪新たな活動が生まれた」は一回のイベントで生まれるものではなく蓄積で生まれることが地域での活動を通して分かってきています。

問3 | テーブル2

テーブル2 【問3】 参加された「お試しラウンドテーブル」の効果について、評価してください。



評価が高かった効果（効果があった＋やや効果があった）

- ⑬地域課題の解決や実現したいことのアイデアが深まった (78%)
- ①地域の資源や活動している人等を知ることができた (56%)
⑥ノウハウが共有できた／を得ることができた (56%)

アンケート結果のポイント

- ・「⑬地域課題の解決や実現したいことのアイデアが深まった」に関する効果があったという回答の割合が他のテーブルよりも高かった
- ・自由記述でも、地域の課題や資源への気づきにつながった。課題を検討するという意味では良いテーマだったといったご意見があった
- ・一方で、まだ取組を実施する段階に至っていないため、アンケートで効果を測定するには早いというご意見が多かった
- ・また、ラウンドテーブルのゴールが見えづらかったなどといったご意見も他のテーブルと比べて多かった。ラウンドテーブルの進め方やゴールの設定についても今後工夫が必要

問4 | テーブル2 [問3のご回答の補足や、その他の効果などに関するご意見]

●一から課題を検討するテーマはラウンドテーブルのお試しとして良かった

- ・ (既に希望のシナリオの前から活動内容が決まっていた)他のテーブルとは違い、一から検討するテーブルで一番「希望のシナリオ」のテストケースとしては最適かと思います。

●課題の検討、課題に気づくことができた

- ・ 参加して新たな課題の発表に気づく事が出来た。

●様々な資源があることがわかった

- ・ 様々な立場の方から、素敵なアイデアがでて、様々な資源があることがわかった。

●対象をシニアに限定する必要はないのでは

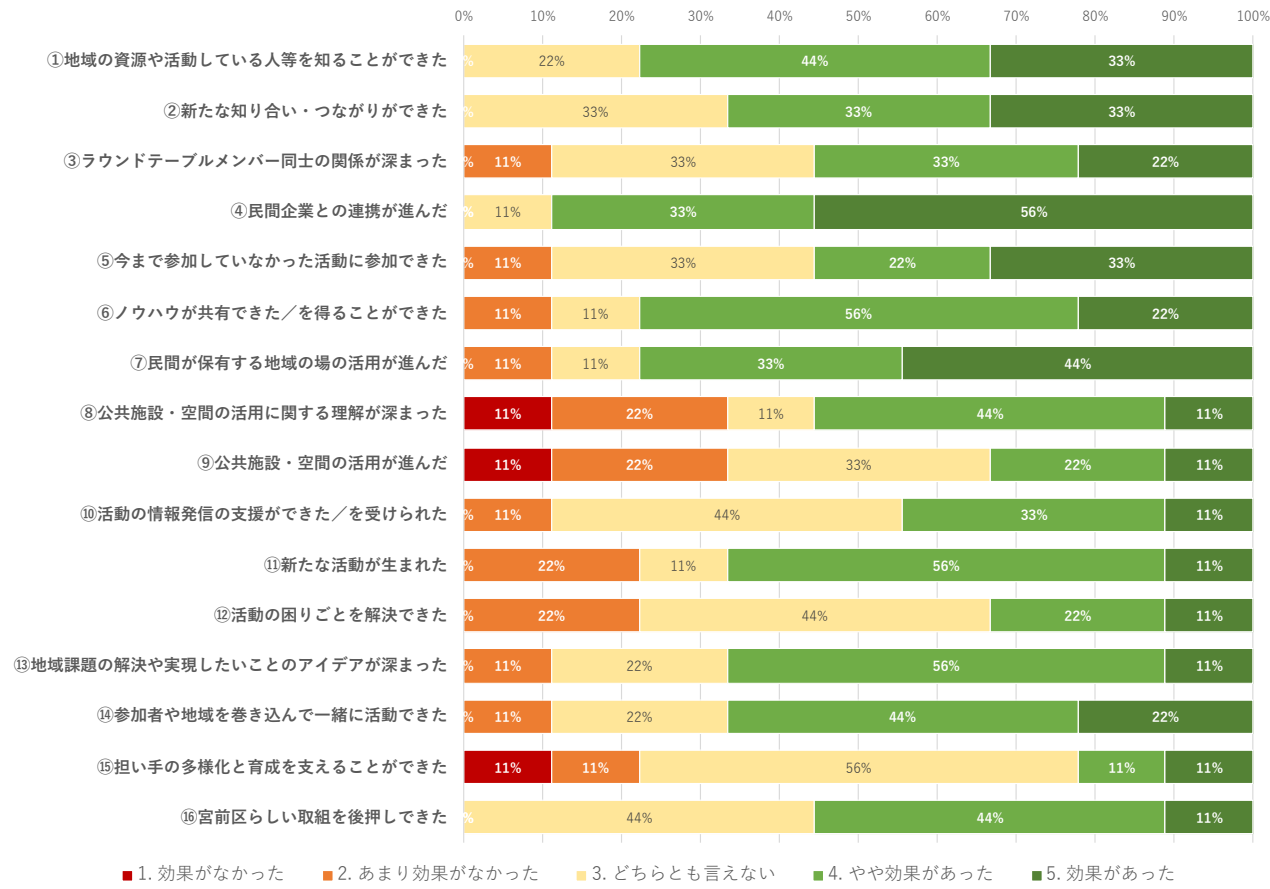
- ・ シニアが気軽に立ち寄れる場に限定しなくてもよいように思う。困っている方や悩んでいる方、行き場を見失っている方、なんとなく人がいるところに黙っていたい方等様々だと思います。

●テーブル2の効果測定はまだ早い

- ・ アンケートの内容が先走りしすぎてテーブル2にはそぐわない内容となっているような感じを受けました。
- ・ 答えるのが難しかった。ラウンドテーブルに1, 2回参加しただけで、回答できる項目ではない気がします。
- ・ 話の場だけで実際に活動したわけでないので、回答に悩みました。
- ・ テーブル2のラウンドテーブルについては、背景に大きな社会課題が含まれており、進行の程度も他より遅れていたと思われ、自己紹介+αの提言程度の初動段階で終わっていたと思います。それゆえ、今回のアンケートの冒頭の質問内容は、主にテーブル1その他に向けに構成されていると思われ、ここで択一の回答形式の結果によってラウンドテーブル2の全体評価をすることはできないのではないだろうか？と思われまます。

問3 | テーブル3

テーブル3 【問3】 参加された「お試しラウンドテーブル」の効果について、評価してください。



評価が高かった効果（効果があった＋やや効果があった）

- 1. ④民間企業との連携が進んだ (89%)
- 2. ⑦民間が保有する地域の場の活用が進んだ (78%)
- 3. ⑥ノウハウが共有できた／を得ることができた (78%)

アンケート結果のポイント

- ・ 民間企業との連携や場所の活用に関する評価が高かった
- ・ 自由記述では、まだイベントを実施する段階に至っていないため、効果がわかるのは実施後というご意見があった

問4 | テーブル3 [問3のご回答の補足や、その他の効果などに関するご意見]**●参加者の活動力や熱意に感心した**

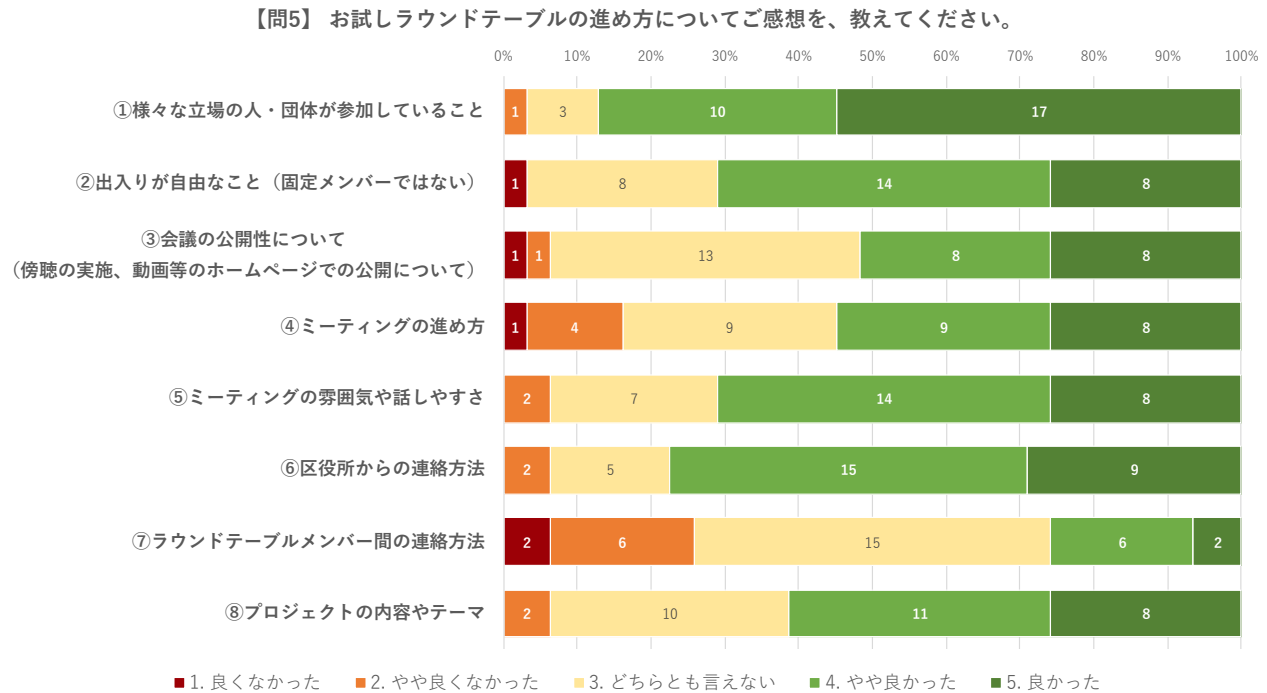
- ・宮前区の地域特性や**お住いの方の活動力**に感心しました。
- ・活動に対して、区役所の担当者さんの**前向きな熱意**が感じられてたいへん良かったです。

●効果を実感できるのはイベント実施後なので、まだわからない

- ・このラウンドテーブル3の取り組みは、3月にコジマルシェを実施することによって初めて結果を見ることができるので、上の問3への回答はほぼ全て「4.やや効果があった」とせざるを得ませんでした。道半ばですので、**結果が出てからまたアンケートを実施**してください。
- ・効果としては、**これからイベントや活動が始まってから**感じるのかなと思っています。

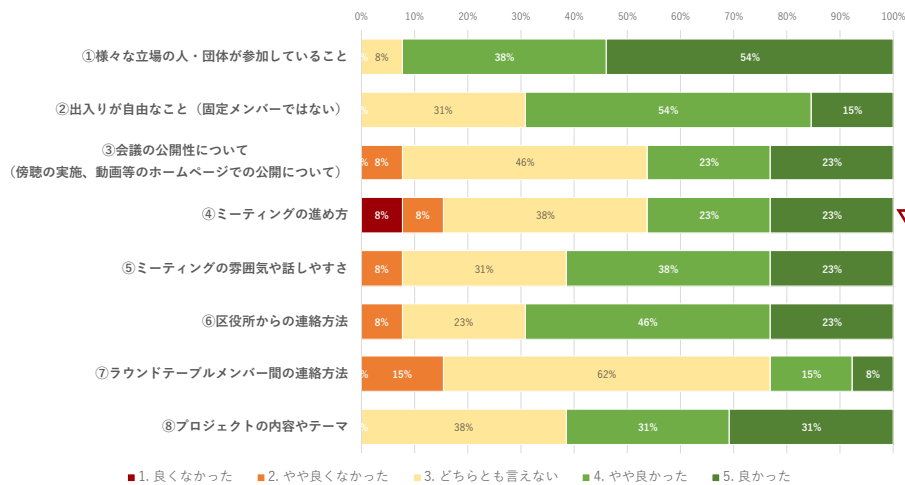
【問5】 お試しラウンドテーブルの進め方についてご感想を、教えてください。

問5 | 全体



問5 | テーブル1

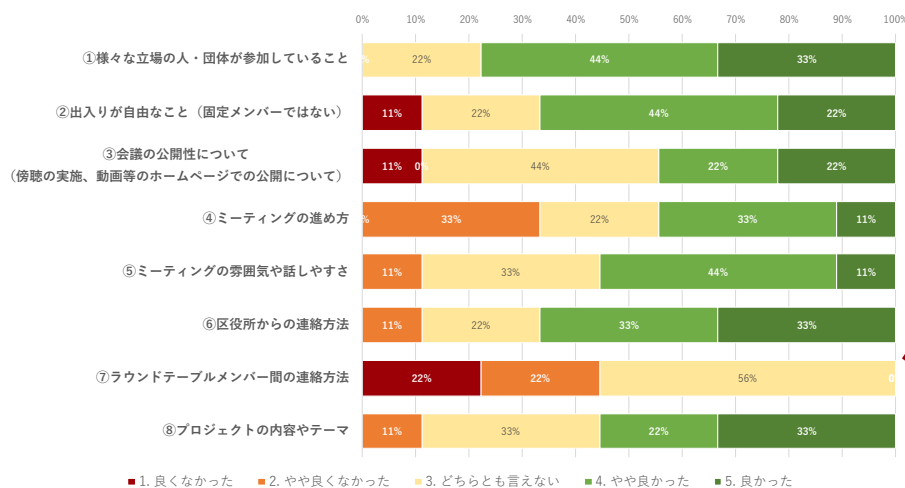
テーブル1 【問5】 お試しラウンドテーブルの進め方についてご感想を、教えてください。



ミーティングの進め方：「ミーティングの進め方はラウンドテーブルってイベント実施の為の仕組みなんだな、と勘違いしそう…と不安になりました。」

問5 | テーブル2

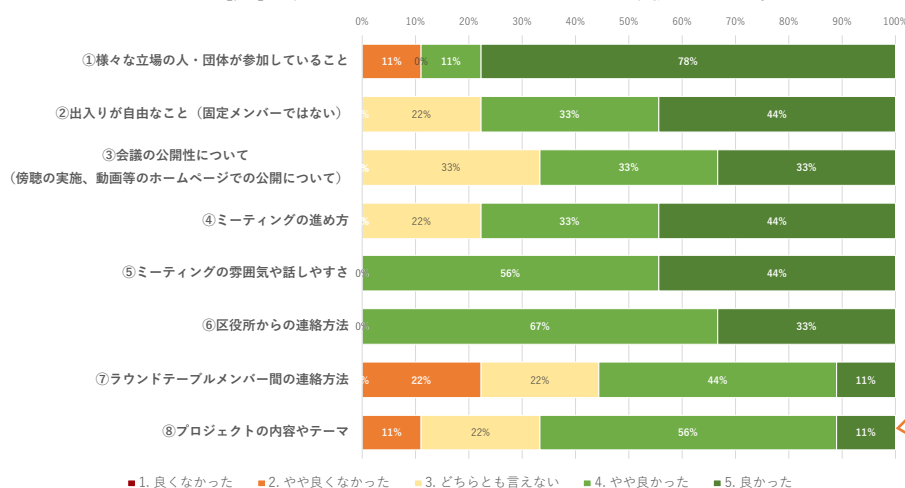
テーブル2 【問5】 お試しラウンドテーブルの進め方についてご感想を、教えてください。



ラウンドテーブルメンバー間の連絡：他のテーブルと比べて低評価。さらに議論が必要なテーマだったが、メンバー間で連絡が取れなかったことが低評価の要因の一つとして考えられる

問5 | テーブル3

テーブル3 【問5】 お試しラウンドテーブルの進め方についてご感想を、教えてください。



プロジェクトの内容やテーマ：「すでに決まっているテーマ（とくにイベント）だったのを参加して知り、発展についてはこれからなのかなと期待しています。」

【問6】 問5のご回答や、その他ラウンドテーブルの進め方などについてご意見があれば、ご記入ください。

凡例 | [1～3] 参加されたテーブル

●さまざまな立場の人の意見を聞くことができた

- ・まちづくり協議会や区役所、市民館の方など、立場の違う様々な方の意見を伺うことができてよかった。[2]

●若い世代の参加できるとより良かった

- ・大学生や若いママなどが参加できて、意見やアイデアを聞くことができたなら、より良かった。[1]
- ・参加者に若い方が少なかったのが、残念だった。[2]
- ・もっと若い世代の参加者の声があると、幅広い視点で討議が出来ると思います。[2]

●メンバー間で連絡ができるツールは用意されていたのか？（なければ評価できない）

- ・メンバー間で連絡し合える状況？ツール？をプロジェクトで用意していたのでしょうか？[2]

●継続的なつながりを促す仕掛けが必要

- ・当日のイベントで終わってしまわないように、出店や参加団体の継続的なつながりを促す仕掛けが必要かもしれない。[1]

●他自治体の事例を知りたい

- ・他の自治体等における、事例があれば紹介してもらいたいです。[3]

●イベントを実施するための仕組みと勘違いしそう。SDCのあり方の議論が必要

- ・ミーティングの進め方はラウンドテーブルってイベント実施の為の仕組みなんだな、と勘違いしそう・・・と不安になりました。SDCのあり方という本質的で継続的な議論をしないでイベント準備・実施したのは非常に残念に思った。出入り自由であったならなおさら毎回その話題に触れる方が良かったとも思いました。その為せっかくマルシェが好評であったとしてもそれがラウンドテーブルがあったからだよ、と言にくいなあと感じています。もっと議論していればラウンドテーブルの効果としても検証できたなあ。出入りが自由と言っても、広く知られてないからメンバーも増えない気がした。ラウンドテーブル1のメンバーも辻さんのことを良く知っている人が大半でしたし、内容だけ見て応募した人が何人いるのかなあと思った。[1]

●進め方が場当たりの、慌ただしかった

- ・反省会の時の進め方が場当たりのだった。アドバイスしてくださる人がいて良かった。[1]
- ・職員の方に仕切ってもらい、乗かった、くらいの感覚だった。やや慌ただしかったが進め方を教えてもらったと思えた[1]

●ミーティングのゴールが不明瞭だった

- ・検討会当日のゴール設定は何だったのでしょうか？自己紹介でしょうか？各自が想いを述べて、それに賛同の投票をすることでしょうか？[2]

●自己紹介だけではノウハウの継承、場所のシェアや活用にはつながらない。働きかけが必要

- ・参加者からの意見、今までの活動経歴、地域に対する思いは、自己紹介の時間の中で伺いました。しかし、何かのアウトプットにつながったのでしょうか？**ノウハウをつなぐとか、場所やシェアの活用は、個人的な働きかけ**を別途しない限り、当日の運営では生み出されなかったのではないのでしょうか。〔2・問4の回答より移動〕

●ミーティングの進行とは関係ないやりとりが多かった

- ・また、検討会の進行とは関係ないやりとりをしている参加者も散見されました。会社の会議ではないので、黙って聞いているとは言いませんが、では、なんでこの検討会に参加しているの？という違和感がありました。〔2・問4の回答より移動〕

●テーマとイベントがあらかじめ決まっていたと感じた

- ・ラウンドテーブルの進め方については、当初第一回会合の前半（全体会議）では、コンサルタントの方も健闘し、行政の方々の熱心さにも感動しました。唯、ラウンドテーブルに参加していた途中で、同じテーブルの方から失望の声を聴き、それだけは若干興ざめな気持ちになった事は追記してお知らせしておきたいと思います。それは、今回テーブル1で行われた宮前まち倶楽部さんの『まちかどシェア』の活動が、“希望のシナリオ”のなかから生まれた____とする出来レースのようなシナリオがあらかじめつくられようとしていたという話でした。私自身は久しく仕事もしてきていますので、3回程度のラウンドテーブルから新しい活動が生まれる事等は難しく、美しいシナリオを創るためにはあらかじめ事前打ち合わせも必要であるとは知っています。ただ他方、失望と不信の声が内部にあった事は、此方がほかならぬ”対話型のラウンドテーブル“であるだけに遺憾だった事、事実としてこちらにお知らせしておきたいと思います。〔2〕
- ・すでに**決まっているテーマ（とくにイベント）**だったのを参加して知り、発展についてはこれからなにかと期待しています。〔3〕

●SDC がわかりにくい

- ・**ソーシャルデザインセンターの意味、目的がわかりにくい**。ネーミングを小学生でもわかるような言葉に変え、再定義した方が良いと思う。各区の事情に合わせ、別々の命名でも良いと思う〔1・2〕

●今年度（お試し実施）の目的とゴールが見えにくかった

- ・ラウンドテーブルの実施形態についてではなく、運営の基軸に対して意見がございます。第1にラウンドテーブル実施、年末年始を挟んだとは言え、1か月以上経過後にアンケート依頼する時間感覚は、ちょっとないだろうと思います。第2に**何の目的を持って実施**するのか、各実施回ごと、**3月最終時点の目的を明確にしてほしい**です。第3に参加者のアイスブレイクの要素を重視しているのか、ブレインストーミング的に意見の発散を意図しているのか、**ラウンドテーブル実施の狙いが知りたい**です。〔2・問9-2より移動〕
- ・2回目しか参加していないので何とも言えませんが、**お試しと考えたとしても、目的とゴールが見えにくかった**。3回だけでは一過性で終わってしまいそう。私も含め、SDCに向かった試みと理解している人は多くなかったのでは。また、「こういうことをやりたい人」と具体的に出してそれに賛同した人で進めるのがよいのでは。〔2・問9-2より移動〕

●参加するラウンドテーブルは自由に選択できたら良かった

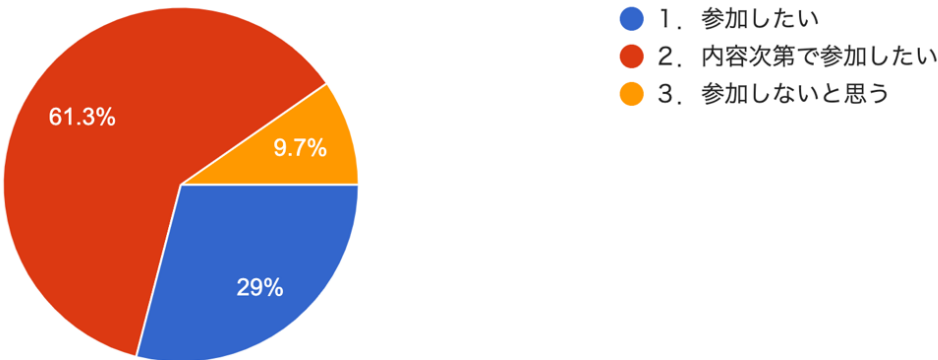
- ・事前のアンケートでテーブルを決められてしまっていたが、当日に自ら選択できる自由な機会が欲しかった〔1・問9-2より再掲〕
- ・今回は、お試しだったからだと思いますが、意向とは関係なく1回目振り分けられてしまった感もある。〔2・問9-2より再掲〕

●とくになし、まだなんとも言えない

- ・特に無し [1]
- ・こちらもまだ半ばなので何とも言えません。 [3]

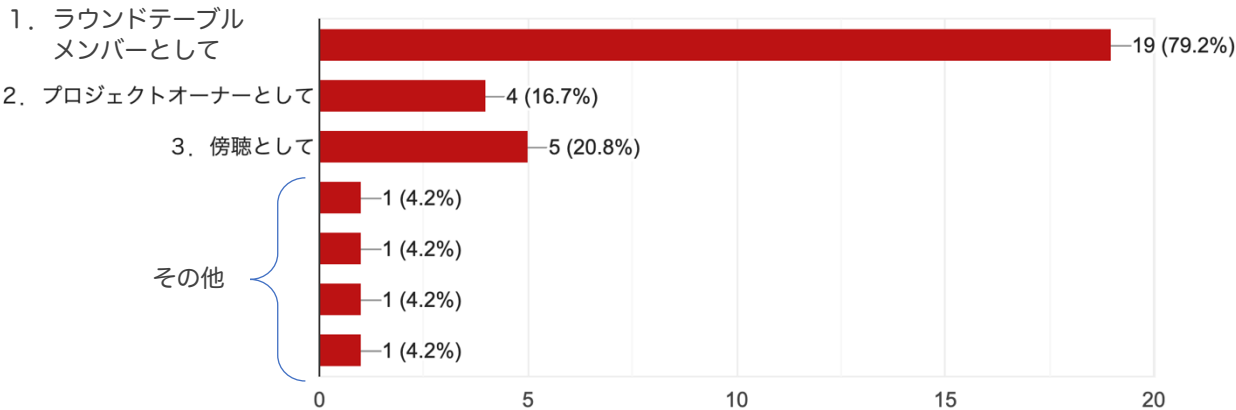
【問7】 今後のラウンドテーブルへの参加について、お聞きします。
(7-1) ラウンドテーブルを実施した場合、また参加したいと思いますか？

31 件の回答



(7-2) 「参加したい」と回答された方にお聞きします。
どのような役割でラウンドテーブルに参加したいと思いますか？

24 件の回答



「その他」のご回答：

- ・ラウンドテーブルとプロジェクトのどちらがいいかまだわかっていなくて申し訳ありません。
- ・進行手順も話せるスタッフ＆メンバーとして
- ・一般の市民として、自分ができる範囲でちょっとしたお手伝いがしたい。

(7-3) 「参加したい」「内容次第で参加したい」と回答された方にお聞きします。どのようなテーマのラウンドテーブルであれば参加してみたいですか？

凡例 | [1～3] 参加されたテーブル

関心があるテーマなど

●人材や活動をつなげるなどのしくみづくりや運営方法

- ・ イベントよりも仕組み作りや運営方法の検討等の話題があれば参加したいです。 [2]
- ・ 宮前区の豊富な人材や活動をどのようにつなげていくか（SDC そのもののアイディア出しのようなもの？） [2]

●公共施設・民間施設の利活用

- ・ 公共施設の活用 [1]
- ・ 子ども文化センターを避難所に活用できないか [1]
- ・ 公共施設・民間施設の利活用について [3]

●交流できる場づくり・たまり場づくり

- ・ 地域の方が活躍でき、交流できる場所作りをめざすような [1]
- ・ 地域のたまり場作り [2]

●市民の交流、多世代交流

- ・ 市民の交流や資源の発掘 [1]
- ・ 多世代交流に関するテーマ [2]

●防災をテーマにした取組

- ・ 子ども文化センターを避難所に活用できないか [1・再掲]
- ・ 防災訓練を兼ねた、自炊生活のための食事作り。防災訓練のためのボードゲーム。 [3]

●高齢者の課題を解決し、サポートするような取組

- ・ 高齢者、要介護支援者やその家族に関するサポート的な取組み [1]
- ・ 高齢者の課題解決など [1]
- ・ 高齢になっても安心して暮らせるまちづくり [2]

●イベントや講座

- ・ イベント、興味深い講座など [3]

●宮前のより良いコミュニティづくり・まちづくりにつながる内容であればこだわらない

- ・ 宮前区のコミュニティが良くなるテーマなら [2]
- ・ だれもが楽しく安心して暮らせるまちづくり [1]
- ・ テーマにはこだわらないが、やりたいと思っている人を応援したい。 [1]

連携したい人

●若い人・町内会・商店会など、お試し実施に参加していなかったような人との連携

- ・まず参加メンバーとして、若い世代の意見を聞きたい [1]
- ・町内会、商店会などの参加もあればいい。 [1]

●民間企業と地域との連携

- ・企業としての地域連携や地域密着型貢献をあらゆる角度から、ご要望等も聞きつつ進めたいと感じます。 [3]
- ・地域と民間連携による地域活性化 [3]

どんな場であって欲しいか

●住民参加や対話のオープンな場で、宮前の魅力を創出し発信する企画

- ・宮前区の魅力を創出して、住民参加の場を提供しながら発信する企画。 [2]
- ・乗り合わせた船の向かう先等について、全体像が参加者にシェアされ、閉塞性等のない、対話型のラウンドテーブル [2]

●参加者への配慮として目的を明確にすることが必要

- ・テーマは今の設定の継続でも構わないし、新規テーマでもいいと思います。しかし、何のための検討会なのか、ゴール設定が曖昧だと「何のために2時間以上も時間を使って意見を言い合ったの？」という印象です。わざわざ時間を作って参加している方に対しては、そういう配慮は絶対に必要だと思います。 [2]

●とくになし／お試し実施後に考えたい

- ・今現在興味のある物は無いので、これと言っては無い。 [1]
- ・まだコジマルシェが実施できていないので次を考えるのはやや尚早かと思います。 [3]

(7-4)「参加しないと思う」「その他」と回答された方にお聞きします。そのように回答された理由は何ですか？

- ・SDCの本質的な議論をしていないで実施することを目的にしているように感じるから。

【問8】 その他「お試し実施」についてご意見があれば、ご記入ください。

凡例 | [1～3] 参加されたテーブル

●様々な立場の意見が聞けた

- ・ラウンドテーブルに参加し、様々な立場の方の意見が聞ける貴重な体験でした。 [1]

●SDCのイメージや希望のシナリオの進め方について議論する場があると良い

- ・SDCのプラットフォームについて、皆さんのイメージを交換・共有する場を設けてほしい。 [1]
- ・お試し実施の前に、希望のシナリオの進め方についてのワークショップを行うと良かったと思います [2]

●テーブルが果たした役割がまだ理解できていない／課題を理解しきれなかった

- ・このプロジェクトについて理解できていないままの偶然的参加でした。今もテーブルの果たした役割の理解ができていません [1]
- ・「マルシェを公園で開催する」ことは何が一番大変なのか問題点がつかめていなかった。2回目のミーティングで説明を受けてわかってきたが、何となくできてしまったような感じが残る。 [1]

●実施はしなかったが素敵なアイデアが出たので、実現できると良い

- ・テーブル2では素敵なアイデアがたくさんあったので、なにかひとつでもお試しできたら良かったと思いました。 [2]
- ・テーブル2は検討のみで実行までのテーブルではないので、今のところの効果としては答え難かった。ただ多くの人のアイディアは出たので、いろいろな可能性は見えてきたと思う。あとはどう継続、実施していくかだと思います。 [2]

●コロナでリアルイベントを実施できるか心配。オンライン活用の検討も必要

- ・まずはコジマルシェが実施できるかどうかです。コロナが落ち着かないので、結局はリアルイベントと並行してオンライン等の活用を引き続き考えるべきなのかなと考えています。 [3]

●違う時間帯のコジマ施設の地域PRのための活用を試せると良い

- ・平日の夕方などコジマ施設を利用しての地域PRや連携を試してみたいと感じます。 [3]

●特技を持つ人の発掘とお披露目ができると良い

- ・地域における、様々な特技を持っている人の発掘。そしてお披露目の会と講座開設。 [3]

●ラウンドテーブルのテーマや方向性がすでに決まっていた

- ・「お試し実施」だったから、すでにイベントの方向が決まっていたのですね！宮前区では農家さんや谷戸、自然の中での取り組みに関われたらと思っていますので、発展したときには宜しく願い致します。 [3]

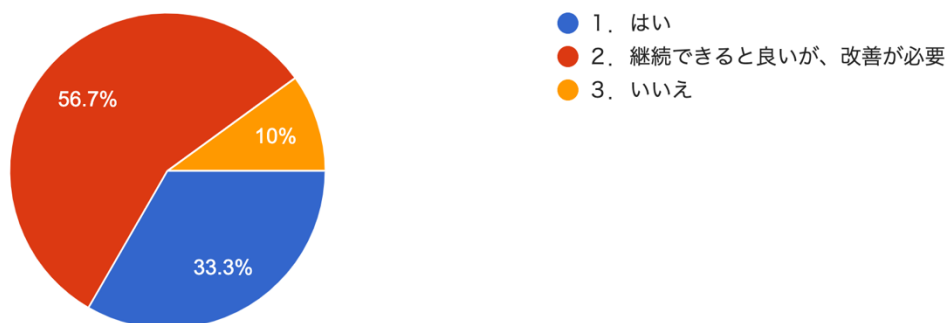
●特にない

- ・特にございません [3]

SDC のあり方について（詳細）

【問9-1】今回試した「ラウンドテーブル形式」はSDCの提供する一つの形式として、今後も継続できると良いと思いますか？

30件の回答



【問9-2】上記ご回答の理由を、教えてください。

1 はい（継続できると良い）

●活発な意見交換ができて、発見や気づきにつながるため

- ・経験や環境の異なるメンバーの意見を聞けるのは、**多くの気づき**が期待できる。
- ・多様な市民活動団体が時と場所を共有することによって、**発見やつながりのきっかけ**となった。
- ・自由度が高く、いろいろな意見が出やすい。
- ・**活発な意見交換**が行えている為。また不足を補う活動が非常に称賛に価すると思います。

●期間を設けて、まちづくりの実情に合った討議が必要

- ・まちづくりは環境の変化が常に大きく関連しています。期間を定期的に設けて実情に合う討議が必要と思います。

2 継続できると良いが、改善が必要

●ラウンドテーブルには多様な人を巻き込み、人が偏らない工夫が必要

- ・宮前区の**資源は「人」**だと思います。ラウンドテーブルにもっと**多様な人をひきこめる工夫**があると良かったと思います。
- ・まだスタートしたばかりなので、何とも言えないと思いますが、こういった取組は参加される方が**いたい、いつも一緒になりがち**なのかなと思います。宮前区の取組では無く、宮前区の一部の方の取

組になってしまわない様に、**より多くの方に当事者意識を持っていただき、参加の輪が広がれば継続**していく取組になっていくのではと思います。

●実際のラウンドテーブルでは、参加するテーブルを自由に選択できると良い

- ・事前のアンケートでテーブルを決められてしまっていたが、当日に自ら選択できる自由な機会が欲しかった
- ・今回は、お試しだったからだと思いますが、意向とは関係なく1回目振り分けられてしまった感もある。

●場所とメンバーは固定したほうが良い（メンバーは期間限定でよい）

- ・場所、メンバーは固定(期間は限定で良いが)を前提にしないと**同じ事を繰り返し、地域の為にはならない**と思います。以前、区民会議に参加しましたが…毎回同じ話しをメンバーを変えて繰り返すだけで効果が感じられなかった。その再来とならないか、危惧しています。
- ・1つの形としては、有りだとは思いますが既に他の区では特定の場所がある所もある。**特定の場所**を設けることは、誰かの**拠り所、居場所**としては必要だと思う。

●場所はいらないが、ラウンドテーブルを回すための事務局のような機能が必要

- ・ラウンドテーブルがいつでもどこでどう開催されるのか。定期開催するのか、手を挙げる人がいたら動くのか。たくさんある活動団体のうちどこがテーブルに着くのか。**場所はいらないが事務局は必要**になってくると思う。

●区役所の主導がある程度必要

- ・SDCは市民創発かなと思いますが、ある程度は区役所が主導権をもって進める必要があるかなと思います。既存の組織や団体さんを大切にしながらも、新たな発展のある宮前区らしいSDCが作れたらと期待しています。

●対面で集まってラウンドテーブルを実施するという事を前提にして良いかが心配

- ・コロナでなければ集まることもできますが、今の様な状況や、さらに今後の感染拡大状況が悪化した場合などは急に何もできなくなるのではないかと懸念します。

●現段階では判断できない、実践と考察を繰り返すことが大事

- ・実践と考察が大事だと思う
- ・現段階では判断ができないため

3 いいえ

●具体的な企画がなくともふらっと悩みを相談できる、日常の区民を受け入れる場所になるとよい

- ・具体的な企画やアイデアを持っていなくても、たとえばまちの悩みを相談できる場所にしてほしいから。だとすると窓口とか事務局とかどこかにある方がいいし、創発までめざすなら雑談スペースとかある方がいいし。イベントをしないとSDCで受け付けてくれないなら区民のためのSDCじゃないなと思った。イベントって日常じゃないです非日常です。日常の区民を受け入れるのが宮前区のSDCであってほしいです。。。

その他のご意見

- ・ 市民活動の事例として、豊中方式とかがあるようです。
- ・ コンサルさんコーディネーターを固定で無く各テーブルに順次移動で全体が把握することができるのでは

【問9-3】 宮前区のSDCの形式として、ラウンドテーブル以外のアイデアがあれば教えてください。

●活動する人や団体が活動を共有し、交流を通じて繋がり、新たな活動を生み出す

- ・ 各団体の活動を1団体ずつ連続的に見せる**発表の場**があっても良い。
- ・ 同じような目的を持って活動をする人、団体間の**交流の場作り**をしてほしい
- ・ 活動の**コラボやつながりの連携図**を見える化したい。
- ・ 他団体とのコラボの可能性として、プロジェクトを進める話し合いだけでなく、講師をお呼びして**ワークショップ**などしながら**交流**しても良いのかなと感じました。
- ・ 地域で活動をする人たちが集まりつながって、**知恵を出し合**して**新たな活動を生み出して**いくという形式は宮前区らしくて良いと思う。

●資源と人を結んで、課題解決に導くようなしくみ

- ・ 「社会的処方」のリンクワーカーのような**地域資源と人を結びつけ、問題を解決に導く**ような仕組みもあっていいのではないかなと思う。

●市民の活動を支援するしくみ

- ・ 市民活動団体への支援の仕組みをつくりたい（人材、資金、活動場所、ノウハウなど）

●市民の声を広く集める、悩みの相談に乗る

- ・ **市民の悩み事相談窓口**の仕組みをつくりたい。
- ・ 住んでいる地域のそれぞれの**声を広く集める**ためにも、「青空会議」（仮称）のような仕組みをつくる。
例えば区内にある複数の公共施設の公園などで、アンケート形式にして**不特定多数の声を拾い集める**。これは事前応募形式でなく、その場にきた人すべてが直接参加者となる。
それらの提案された内容は回数を重ねて方向性を決定し実行する。
大きな意義は気軽に誰もが参加出来、広い視点で討議することが出来ると思います。

●市民がふらっと立ち寄って創発が生まれる環境をつくるために、固定した場所とスタッフ機能が
必要

- ・先にした通りですが、何かをやるために招集するのではなくて、誰でもふらっと立ち寄れる場所があると、どんな区民にも公平だし、何より日常的な創発の芽の可能性が生まれる環境になるのでは思っています。
- ・坂の多い宮前区のプラットフォーム的たまり場を各地域につくり互いを結び点から面につながりを持つ
- ・また、固定した活動場所とスタッフ機能は必須だと思いますので、こちらに予算をつけるべきだと思います。

●実施する取組（拠点やラウンドテーブルなど）は、その時のニーズに合わせて変化しても良い

- ・特定の場所も作りつつ、ラウンドテーブルもやりつつ、その時々で変化していく SDC でも良いと思う。

●まちづくり協議会と一緒に活動できると良い

- ・宮前区には歴史も、実態も伴っている[まちづくり協議会]があるので、一緒に活動するのが良いと思います。それぞれ良い所、悪い所がありますが…短所を補い合ってより良い一つの組織？グループ？になれば良いと思います。

●その他

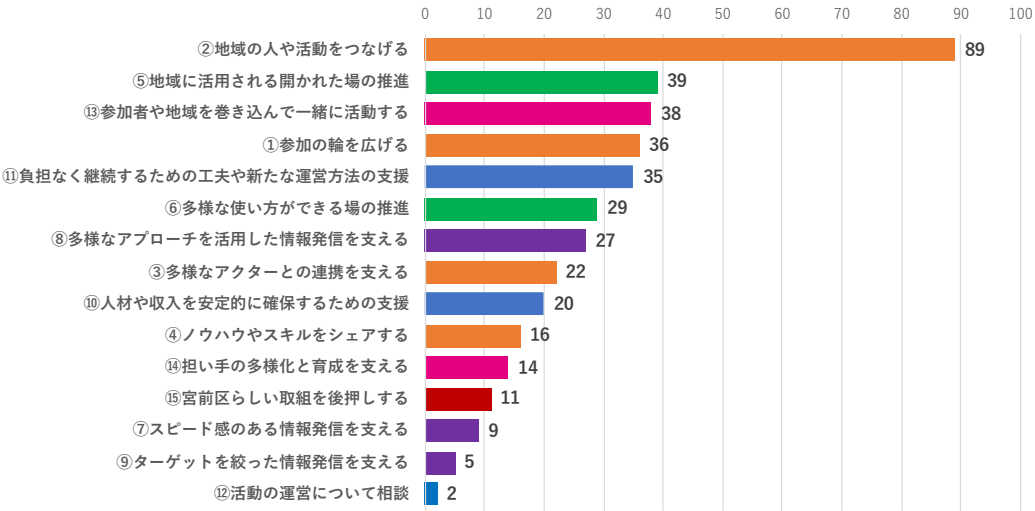
- ・少なくとも私にとっては SDC が目的ではなく、あくまでクリエイターの活躍の場や、地域のお客様との繋がり創出が第一なので、そこを目指して進む過程で結果的に SDC に近いものが見えてくれればそれでいいと思っています。
- ・特にありません。

【問 10】 宮前区 SDC の機能について、お聞きします。宮前区 SDC が担うべき役割や果たすべき機能として、最も大切なものはどの機能だと思いますか？



加点方法 | 最も大事：5 点 ～ 5 番目に大事：1 点

優先度	令和元年度の取組の中で御意見として出された活動を支援する機能	ポイント
1	②地域の人や活動をつなげる	89
2	⑤地域に活用される開かれた場の推進	39
3	⑬参加者や地域を巻き込んで一緒に活動する	38
4	①参加の輪を広げる	36
5	⑪負担なく継続するための工夫や新たな運営方法の支援	35
6	⑥多様な使い方ができる場の推進	29
7	⑧多様なアプローチを活用した情報発信を支える	27
8	③多様なアクターとの連携を支える	22
9	⑩人材や収入を安定的に確保するための支援	20
10	④ノウハウやスキルをシェアする	16
11	⑭担い手の多様化と育成を支える	14
12	⑮宮前区らしい取組を後押しする	11
13	⑦スピード感のある情報発信を支える	9
14	⑨ターゲットを絞った情報発信を支える	5
15	⑫活動の運営について相談	2



「その他」の機能について：

- ・ 必要に応じた経済的な支援（「3 番目に大事」な機能として）
- ・ 子どもや高齢者や身体がい者の人も参加できるようなイベントの開催（欄外）
- ・ 様々なイベントを開催できる場所の提供（欄外）

【問11】 今後、宮前区らしいしくみを実施していく上で、さらに検討が必要と考えることはありますか？

人の巻き込み

●若い／多様な世代、新住民を巻き込む方法や取組が必要

- ・ラウンドテーブルにあまり若い方がいらっしゃらないようでしたので、若い方を対象にスマホで意見やアイデアをつのるサイトなどがあれば、より多様な意見、アイデアなどを聞くことができるかもしれないと思いました。
ラインのお友達登録や市民協働投稿サービスなどを使い、テーマにそった意見、アイデアなどをつのり、それに対してノベルティグッズやポイントがつくなど。
- ・宮前区内も日々、住民の高齢化、宅地造成、新住民の流動等で生活環境が変化しています。常に新しい環境を視点に捉え、現状を考えた世代にわたる幅広い討議の場が必要と思います。
- ・いろいろな世代をインクルードしていくやり方。特に高校生・専門学校生・大学生など。
- ・宮前区は出入りが激しい地域のため、新しく入ってくる人にも分かりやすく、抵抗なく、アウェイ感を感じさせない取組が必要だと思う

●企業の巻き込んだ取組の実施

- ・川崎市宮前区にある企業や商店も巻き込んだイベントの開催。

運営主体について

●誰が団体同士をつなげ、大きな動きにしていくのかを考える必要がある

- ・個人や小さな団体がやりたいことを、他の団体などと調整して大きなうねりにしていくのは、間に入る人の力量が問われる。誰がそれを行うのか。

●ラウンドテーブルのノウハウをどのように蓄積するか

- ・今回のお試しでもいろいろなノウハウが得られたが、今後蓄積されていく情報をどこが（誰が）管理して利用していくのか。ノウハウも人が変わると変わってしまったりするので、常にアップデートが必要だと思う。

場について

●参加者のつながりを自然に生む環境をつくるため、同じ時間に同じ場所で集まれることが大事

- ・20年以上前？に作成した区づくりプランの7つの目標の思いや、考え方は、希望のシナリオで検討してる事と結局変わらないと思います。なので…このテーマの活動を継続することが大事だと思います。
参加者がいろいろな活動を生み出せるようにする為にも、その活動グループ同士が(繋がるのではなく)自然に繋がる環境づくりが大事かと思います。
その為には、参加者が同じ場所、同じ時間に集まれる場が必要だと思います。固定した場や、

多くの人が来やすい時間の設定、場の運営者の質が大事でしょうか…その運営者も長い期間、継続して運営できると良いと思います。

●出張所などの場の資源を活用できると良い

- ・向丘出張所の活用

情報発信

●地域の活動の情報発信方法の検討が必要

- ・現在各地域で多種多様な活動がされているが、知らない活動が多い。見える化するために、例えばオンライン上に紹介ページをつくれないうか。
- ・情報の発信方法。今まで地域の活動を知る機会が回覧くらいしか知らなかった。
- ・地域活動に関しての今一番の課題は、知られていない、届けられていない、関心のある人の活動参加の入り口がわからない、だと思いますので、既存の手段やくちこみ以外の情報発信が必要だと思います。

●SDCの取組自体を住民に知ってもらうための工夫が必要

- ・取組まれている活動は素晴らしいと思いますので、それをどうやって住民の方々に伝えていくという部分も大切なファクターだと思います。一人でも多くの方に振り返っていただけるように、情報の発信には工夫されて方が良いのかと思います。

宮前らしさ

●「宮前区らしさ」の検討が必要

- ・宮前区らしさの捉え方としぼりこみ
- ・私個人は農や谷戸、自然のなかでの子育てができる環境があることが、宮前区だと感じています。ぜひ、宮前区らしさを取り組みに入れていただけると嬉しいです。
- ・一方、今仲間とともに会を立ち上げ、市民館自主企画の提案を進めています。こうして区民が自主的にどんどん前に進んでいくのが宮前区らしさなのかも、と思います。
- ・宮前区らしい仕組みって何かが分からない。それって何ですか？SDCのあり方の意見交換を色んな人とやるべきかなと思う。

●他区取組を知ることで、宮前らしさを生み出す

- ・川崎市の他区で実施しているSDCとの連携が必要なのではないでしょうか？連携することで、他区のいいところや悪い所も知ることができるので、結果的には、宮前区らしさを生み出すことができると思います。

●宮前区らしい資源の発掘と確認と、点から面への展開が必要（主にテーブル1について）

- ・宮前区らしい資源の発掘と確認
(目的)
- ・地政学的な「坂」の克服とこれからの少子高齢化社会に向かった資源活用が望まれる
(現状)

- ・「坂の途中」にある「公園」は宮前区に多い。
- ・今回のマルシェは公園の一つで、一つの「点」としての活用であった。

(課題)

- ・マルシェなどは今回の「点」の活用から、今後は公園の周辺、他の公園と結ぶ「線」へ、そして「面」の展開が必要

(今後の段階的展開)

- ・まずは近未来をにらんで、若手、Z世代、子育てママ等を中心としたマルシェのプレイヤーの育成のための会議開催
- ・ニーズが顕在化しているもの、していないものなどを整理、テーマを検討
- ・挨拶、コミュニティを志向する人、ウオーキングコースとして休む人、子育て情報・交換の場として考える人、手作り小物などをビジネスとして、飲食店などからのテイクアウト事業者として参加等(一つの方向として)
- ・公園のベンチ、いすの修繕、(トイレの設置なども)それに公園の周辺の道路占有許可緩和歩道エリアの活用。こうした場を活用した、ウィズコロナ下での飲食サービス、商店街のテイクアウト事業者等への支援。
- ・当面は、ウオーキングコースなどのコース整備が重要となろう。ウィズコロナ禍では近場の公園等、しゃれたベンチ、運動具等「ストリートファニチャー」の整備

その他：実施方法やテーマ等について

- ・つい最近も地域振興課さんと進めていたご近助ピクニックが中止になったばかりで、公園活用なども含め実例になるかと思われたのが頓挫してしまったので、これは引き続き進めつつも別の形を作る必要があるのかと思います。
- ・シニアの自立支援事業を起す
- ・区役所移転問題を宮前区の最重要課題として、真正面から取り組むべきかと思っています。

公共施設の地域化に関するアンケート結果まとめ

2021 年 11 月 3 日（祝） | 宮前区の「希望のシナリオ」実現プロジェクト・ミーティング1にて実施

Q1：公共施設や空間が、地域でさらに活用できるとしたら、どんなことをしてみたいと思いますか？

A1：

イベント関係
平瀬川でボート競技
1年に1回、バス通りを歩行者天国に！
1年に1回、モナコのカーレースのようにしたい（バイクの爆音がうるさいので、1年に1回くらいスピードレース OK で発散）
お祭り
コンサート
ダンス
花火
学園祭
空間一気球、アドバルーンが飛んだら施設の窓からも見える
子どもたちが喜ぶイベント
子ども向けものづくりイベント（ミニ四駆組み立て教室など）
美術展
平瀬川で灯籠流し（山の上からも見える）
平瀬川に川タクシー（足の不自由な方も）
カフェ・マルシェ・販売関係
「いこいのカフェ」（おしゃべり）
PR 活動
おしゃべり＋カフェ＋etc（販売・植物・小物など）
お茶飲み、話す場
カフェ
キッチンカー

コジマで販売している「新型家電」で試作、飲食、体験してみる
コジマで販売している「保存食」を試作、飲食、体験してみる
シニアカフェ
スマホ、家電などの出張販売
マルシェ
家電の販売や体感・体験イベント
住まいのトラブル相談（水回り、網戸等の相談）
日頃の活動を通して「災害発生時」の飲食の体験をしてみる「クロス販売」
教室・講座関係
お絵描き教室
シニアの IT の活性化のためのつながりづくり
プログラミング教室
講座
地元の歴史の勉強会
パステルシャインアート（阪神大震災の折に開発された技法）体験会、四季のものを書いてみる
句会（体験的に川柳をつくる）
眉メイク
簡単 時短 煮物教室（1 食分を作って持って帰れる）
交流・相談関係
高齢の方、来店の難しい方の家電相談、訪問設定サービス（電球交換、点検サービス等の提供）
出入り自由の塾
情報を得て活用できる仕組みを作りたい
相談
多世代の交流の場
多世代交流
対話（ダイアログ）
地域や企業、出会いの場
町の人の特技や個性を見せ、互いに楽しめる場づくり。
同業者の勉強会

得意技発表会（イベント）
老人集会所
話を聞いてあげられる場
その他
コンテナガーデン・お花の世話をする、花壇をつくる
チラシの配架
移動 SDC
災害時避難場所
半端な三角地の利用
防災・災害時の備蓄
高山団地への坂にモノレール

Q2-1：特に使ってみたい施設があれば教えてください（公共施設）

A2-1：

使ってみたい公共施設	挙げられた方の数
公園	6
こども文化センター	3
区役所市民広場	3
市民館	3
団地	2
学校の校庭	1
小学校	1
宮前地区会館	1
向丘出張所	1
営生分館	1
川崎市青少年の家	1
老人福祉センター	1
道路	1
平瀬川	1

Q2-2：特に使ってみたい施設があれば教えてください（民間施設）

A2-2：

使ってみたい民間施設	挙げられた方の数
駅前広場	2
NEXCO 川崎コミュニケーションプラザ	1
コジマ	1

○その他意見等

エリア毎で対応できることと、エリアを超えた特定のテーマ（市全体で取り組むべきこと）の両方のラウンドテーブルの設定をお願いしたい。エリア（区毎）、特定のテーマ（川崎区～麻生区、区を定められるテーマ）そのテーマは興味のある人が生まれる仕組み
どんな施設があり、どういう条件で利用できるのかの一覧（使用ガイド）のようなものが欲しい
マルシェなどのイベント。販売などは営利とみなされ、利用できない現実は悲しい。1度 OK された講座が断れた経験あり。急な変更が大変でした。
禁止看板ではなく、「使って良い」という表示が増えると楽しい
公園の利用規則が多い為、利用できない事もある公園でお茶飲み、話す場がいつでも出来るようにしたい。
市民館に活動のチラシを置きたい（以前は置けたが、活動が増えた為か、市民館利用する方に限定されてしまった）
自由に出入りして好きな時間で使えると人は集まると思う。出入り自由の塾とか話を聞いてあげられる場とか。
若い人がくるにはおしゃれであることが重要
新しい新市役所の建物を PR にいかに活かすか